鹿児島女子短期大学

FACULTY DEVELOPMENT

FD・SD 活動報告書 2021

Contents

1．学生による授業評価
2．授業公開
3．FD・SD 研修会

1. 学生による授業評価

＜授業評価アンケート実施内容＞

（単位：名）

年　度	学期	専　任 教員数	実施教員数 （専任）	授業改善書 提出教員数 （専任）	非常勤教員 実施・授業改善書 提出数
2021 年度	前期	４２	４１	４１（97.6%）	１５
	後期	４２	４１	３９（92.9%）	１１

（授業改善書等未提出／後期２名：2022 年３月退職者、前・後期１名：休職）

◆授業評価等依頼文書（例示：2021 年度後期授業評価アンケート及び授業改善書提出依頼）

授業評価及び授業改善報告書について（令和３年度後期）

1　後期授業評価について

実施期間：　１月５日（水）～　１月３１日（月）

実施方法：　学生がユニパのアンケート機能を用いて回答します。アンケートの回答方法についてはユニパでも知らせますが、15 回授業の科目では、先生方からも授業中にご指示をお願いいたします。授業内で回答の時間をお取りいただければ回収率は上がりますので、よろしくお願いいたします。授業内で実施されない場合でも、アンケートへの回答を依頼し、とくに第 20 問（達成度自己評価）の回答に必要な、当該科目で修得すべき主な DP の内容と番号を、板書して学生に伝えて下さい。

なお、全科目の DP 一覧表が、ユニパ上で閲覧できるようになりますので、各自ご確認ください。DP 一覧表は、学生も回答時に閲覧可能です。

2　授業改善報告書について

集計結果の公開期間：　２月２日（水）～　３月１５日（火）

＊この期間、科目担当者のみユニパで閲覧・印刷できます。

報告書の提出期限　：　３月１５日（火）

報告書の作成方法　：　アンケートの集計結果を踏まえ、担当科目全てについて、授業改善報告書を作成してください（サイボウズからダウンロード可）。

なお、別途、授業評価の全体的データを配布しますので、作成時の参考にしてください。

報告書の提出方法　：　各自、担当科目全ての授業改善報告書を２部提出、１部に印刷した集計結果（全科目分）を添付し（自由記述を除く）、左上をクリップで綴じて、事務室に設置する所定の箱に提出してください。

以上

◆授業評価アンケート（Universal Passport 使用）（例示：2021 度後期）

123456789　科目A（教員B）

※【令和３年度後期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて・・・

１．あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。（必須）
○ 欠席なし ○ 1回 ○ 2回 ○ 3回 ○ 4回以上

２．あなたは『シラバス』をよく読みましたか。（必須）
○ 全く読んでいない ○ あまり読んでいない ○ どちらともいえない ○ おおむね読んだ ○ 十分に読んだ

３．あなたは予習や復習を十分にしましたか（必須）
○ 全くしていない ○ あまりしていない ○ どちらともいえない ○ おおむねやった ○ 十分にやった

４．あなたは授業の内容を理解することができましたか。（必須）
○ 全くできていない ○ あまりできていない ○ どちらともいえない ○ おおむねできた ○ 十分にできた

５．あなたの受講態度を次の中で評価してください。（必須）
○ 悪い ○ どちらかというと悪い ○ どちらともいえない ○ どちらかというと良い ○ 良い

授業について・・・

６．授業は講義要項に沿って行なわれましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

７．授業はよく準備されていましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

８．毎回の授業の目標は明確になっていましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらとも言えない ○ そう思う ○ 強くそう思う

９．教員の説明は分かりやすかったですか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１０．発見や感動などがあり，興味の持てる授業でしたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１１．教員と学生の間にやり取りがあるなど，授業に活気がありましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１２．教員の声は十分に大きく，明瞭な話し方でしたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１３．板書の仕方，パワーポイントの表示の仕方，プリントの用い方は適切でしたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１４．始業・終業時間を含め，時間配分は適切でしたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１５．教員の熱意を感じましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１６．教員は，学生に公平に接していましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１７．テキスト，ビデオ，プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１８．この授業にとって教室の環境，設備などは適切でしたか。（必須）
○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

１９．この授業を総合的に次の5段階で評価してください。（必須）
○ 悪い ○ どちらかというと悪い ○ どちらともいえない ○ どちらかというと良い ○ 良い

２０．この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について，自分の達成度を次の5段階で評価してください。（必須）
○ ほとんど達成できなかった ○ あまり達成できなかった ○ どちらともいえない ○ おおむね達成できた ○ 十分達成できた

２１．この授業で良かったと思うことを入力してください。

２２．この授業で良くなかったと思う点，改善すべきだと思う点を入力してください。

２３．この授業について，教室・施設・設備も含め，不満・要望・その他があれば入力してください。

回答

◆「授業改善に向けて」用紙（例示：2021 年度後期）

授業改善報告書（後期）

作　成　日　：令和　　年　　月　　日

教員名（所属）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

授業評価アンケート結果を受けての授業改善計画

※ 複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください。
　例：（ 95＋110 名 ）
※ ①は新規科目の場合、記載不要です。
※ ②の分析は、学生による授業評価アンケートをもとに、総合的に振り返ってください。
　学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただく内容でも結構です。

授業科目名（受講者数）	（　　名）
①今年度の改善目標 ※前年度報告書に基づき記載	
②授業評価アンケート結果の分析	1）良かった点 2）改善を要する点 3）カリキュラムポリシーに則って学修が進められたかの分析
③次年度へ向けての改善目標・内容	

◆授業評価集計結果（例示：2021 年度前期全体：Universal Passport 上での結果表示）

期間：2021/07/02（金） 00:00～2021/08/12（木） 23:59
対象人(延べ数)： 10757人 回答人(延べ数)： 7778人 回答率 72.3%

※【令和３年度前期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて・・・

1．あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。（必須）

	比率	人数
欠席なし	76%	5924人
1回	14%	1055人
2回	6%	461人
3回	3%	240人
4回以上	1%	98人

2．あなたは『シラバス』をよく読みましたか。（必須）

	比率	人数
全く読んでいない	3%	213人
あまり読んでいない	18%	1370人
どちらともいえない	22%	1684人
おおむね読んだ	45%	3536人
十分に読んだ	13%	975人

3．あなたは予習や復習を十分にしましたか（必須）

	比率	人数
全くしていない	4%	273人
あまりしていない	15%	1158人
どちらともいえない	29%	2220人
おおむねやった	39%	3002人
十分にやった	14%	1125人

4．あなたは授業の内容を理解することができましたか。（必須）

	比率	人数
全くできていない	1%	39人
あまりできていない	3%	263人
どちらともいえない	13%	1002人
おおむねできた	56%	4331人
十分にできた	28%	2143人

5．あなたの受講態度を次の中で評価してください。（必須）

	比率	人数
悪い	0%	10人
どちらかというと悪い	1%	69人
どちらともいえない	15%	1131人
どちらかというと良い	45%	3535人
良い	39%	3033人

授業について・・・

6．授業は講義要項に沿って行なわれましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	10人
そうは思わない	1%	55人
どちらともいえない	9%	716人
そう思う	51%	3994人
強くそう思う	39%	3003人

7．授業はよく準備されていましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	6人
そうは思わない	1%	63人
どちらともいえない	6%	466人
そう思う	44%	3426人
強くそう思う	49%	3817人

8．毎回の授業の目標は明確になっていましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	17人
そうは思わない	1%	96人
どちらとも言えない	8%	612人
そう思う	47%	3617人
強くそう思う	44%	3436人

9．教員の説明は分かりやすかったですか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	73人
そうは思わない	2%	193人
どちらともいえない	10%	808人
そう思う	43%	3335人
強くそう思う	43%	3369人

１０．発見や感動などがあり，興味の持てる授業でしたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	44人
そうは思わない	2%	165人
どちらともいえない	11%	855人
そう思う	44%	3454人
強くそう思う	42%	3260人

１１．教員と学生の間にやり取りがあるなど，授業に活気がありましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	50人
そうは思わない	3%	208人
どちらともいえない	15%	1189人
そう思う	43%	3353人
強くそう思う	38%	2978人

１２．教員の声は十分に大きく，明瞭な話し方でしたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	1%	50人
そうは思わない	2%	144人
どちらともいえない	7%	560人
そう思う	42%	3232人
強くそう思う	49%	3792人

１３．板書の仕方，パワーポイントの表示の仕方，プリントの用い方は適切でしたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	37人
そうは思わない	2%	135人
どちらともいえない	8%	619人
そう思う	45%	3471人
強くそう思う	45%	3516人

１４．始業・終業時間を含め，時間配分は適切でしたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	25人
そうは思わない	2%	118人
どちらともいえない	8%	599人
そう思う	45%	3506人
強くそう思う	45%	3530人

１５．教員の熱意を感じましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	13人
そうは思わない	1%	46人
どちらともいえない	6%	505人
そう思う	45%	3491人
強くそう思う	48%	3723人

１６．教員は，学生に公平に接していましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	18人
そうは思わない	1%	44人
どちらともいえない	6%	458人
そう思う	45%	3517人
強くそう思う	48%	3741人

１７．テキスト，ビデオ，プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	23人
そうは思わない	1%	66人
どちらともいえない	6%	468人
そう思う	44%	3419人
強くそう思う	49%	3802人

１８．この授業にとって教室の環境，設備などは適切でしたか。（必須）

	比率	人数
全くそうは思わない	0%	16人
そうは思わない	1%	39人
どちらともいえない	6%	442人
そう思う	48%	3721人
強くそう思う	46%	3560人

１９．この授業を総合的に次の5段階で評価してください。（必須）

	比率	人数
悪い	0%	25人
どちらかというと悪い	1%	82人
どちらともいえない	9%	695人
どちらかというと良い	37%	2865人
良い	53%	4111人

２０．この授業の主要な到達目標（カリキュラムマップ参照）について，自分の達成度を次の5段階で評価してください。（必須）

	比率	人数
ほとんど達成できなかった	0%	24人
あまり達成できなかった	2%	164人
どちらともいえない	14%	1117人
おおむね達成できた	59%	4568人
十分達成できた	24%	1905人

◆授業改善書提出（例示：2021 年度後期：全教員提出「授業改善書」ファイル保管）

授業改善報告書（後期）

作　成　日　：令和　3 年　3 月　14 日

教員名（所属）：[redacted]

授業評価アンケート結果を受けての授業改善計画

※ 複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください。
　例：（ 95＋110 名 ）
※ ①は新規科目の場合、記載不要です。
※ ②の分析は、学生による授業評価アンケートをもとに、総合的に振り返ってください。
　学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただく内容でも結構です。

授業科目名 （受講者数）	[redacted]　（ 146 名 ）
①今年度の改善目標 ※前年度報告書に基づき記載	大人数でも、誰も集中力が途切れず、私語をすることを忘れるような聴き入る講義にすること
②授業評価アンケート結果の分析	1）良かった点 評価は概ね良好であった。興味関心を喚起できている。ここで奢らず常に最新の科学とその根底になる科学的思考をどれだけ教育として追い求めつつ学生に伝えられるかを模索し続ける必要がある。 2）改善を要する点 授業において環境を整えることは大切であり、これまでは雰囲気づくりに重点を置いてきたが、機材や部屋のレイアウトによって、いかに授業を効果的なものにするか、設備的環境面を捉え直し、より効果的な教授のあり方を探りたい。 3）カリキュラムポリシーに則って学修が進められたかの分析 一般教養科目として CP に則り、学生の興味関心を引き出しながら、探究心を引き出せるような学修を行えた。
③次年度へ向けての改善目標・内容	大人数教室における効果的な学修環境をいかに構築するかを試行錯誤しながら模索する

◆授業評価（全体（前期・後期）結果：2019－2021 年度比較）

2021年9月27日

2019年度_2020年度_2021年度　前期実施
「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率（%）						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(1)	あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	2019	61.2	22.5	9.5	4.9	1.9		8,177	0.6
		2020	68.1	18.6	9.7	2.9	0.7		7,224	0.5
		2021	76.2	13.6	5.9	3.1	1.3		7,778	0.4
(2)	あなたは『講義要項』（シラバス）をよく読みましたか。	2019		8.2	20.7	30.1	35.0	6.1	8,177	3.1
		2020		4.0	17.3	24.9	43.7	10.0	7,224	3.4
		2021		2.7	17.6	21.7	45.5	12.5	7,778	3.5
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2019		8.9	20.1	31.6	30.1	9.4	8,177	3.1
		2020		3.7	13.9	29.5	39.4	13.5	7,224	3.5
		2021		3.5	14.9	28.5	38.6	14.5	7,778	3.5
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2019		1.5	5.0	18.7	56.8	18.0	8,177	3.8
		2020		0.5	3.1	12.3	56.0	28.1	7,224	4.1
		2021		0.5	3.4	12.9	55.7	27.6	7,778	4.1
(5)	あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	2019		0.3	1.5	20.3	50.0	28.0	8,177	4.0
		2020		0.1	0.6	12.4	46.4	40.5	7,224	4.3
		2021		0.1	0.9	14.5	45.4	39.0	7,224	4.2
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2019		0.5	1.3	17.9	55.2	25.0	8,177	4.0
		2020		0.3	1.0	12.7	51.8	34.1	7,224	4.2
		2021		0.1	0.7	9.2	51.3	38.6	7,778	4.3
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2019		0.6	1.4	9.7	50.0	38.3	8,177	4.2
		2020		0.4	1.2	6.8	43.6	48.0	7,224	4.4
		2021		0.1	0.8	6.0	44.0	49.1	7,778	4.4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2019		0.7	2.1	12.5	50.9	33.7	8,177	4.1
		2020		0.5	1.5	8.2	45.6	44.3	7,224	4.3
		2021		0.2	1.2	7.9	46.5	44.2	7,778	4.3
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2019		1.7	3.7	12.8	46.9	34.8	8,177	4.1
		2020		1.1	2.6	9.9	41.6	44.8	7,224	4.3
		2021		0.9	2.5	10.4	42.9	43.3	7,778	4.3
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2019		1.5	3.2	14.7	47.1	33.5	8,177	4.1
		2020		0.9	2.4	11.4	44.4	41.0	7,224	4.2
		2021		0.6	2.1	11.0	44.4	41.9	7,778	4.2

2021年9月27日

2019年度_2020年度_2021年度　前期実施
「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率（%）						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2019		1.2	3.8	17.6	45.7	31.8	8,177	4.0
		2020		1.0	2.7	13.9	43.6	38.8	7,224	4.2
		2021		0.6	2.7	15.3	43.1	38.3	7,778	4.2
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2019		0.9	2.5	10.8	45.2	40.6	8,177	4.2
		2020		0.7	2.0	7.0	40.3	49.9	7,224	4.4
		2021		0.6	1.9	7.2	41.6	48.8	7,778	4.4
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	2019		1.1	2.5	13.0	47.4	36.0	8,177	4.1
		2020		0.9	1.8	9.1	43.3	44.9	7,224	4.3
		2021		0.5	1.7	8.0	44.6	45.2	7,778	4.3
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2019		1.1	2.4	10.2	50.6	35.8	8,177	4.2
		2020		0.8	1.5	6.9	45.1	45.7	7,224	4.3
		2021		0.3	1.5	7.7	45.1	45.4	7,778	4.3
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2019		0.6	1.3	11.0	47.3	39.7	8,177	4.2
		2020		0.4	1.0	7.1	43.5	47.9	7,224	4.4
		2021		0.2	0.6	6.5	44.9	47.9	7,778	4.4
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2019		0.7	1.2	9.2	49.5	39.4	8,177	4.3
		2020		0.4	0.6	6.0	43.7	49.3	7,224	4.4
		2021		0.2	0.6	5.9	45.2	48.1	7,778	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	2019		0.7	1.3	10.5	48.3	39.2	8,177	4.2
		2020		0.5	1.0	6.7	43.1	48.8	7,224	4.4
		2021		0.3	0.8	6.0	44.0	48.9	7,778	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2019		0.5	1.0	9.0	52.1	37.4	8,177	4.2
		2020		0.4	0.7	6.2	45.8	47.0	7,224	4.4
		2021		0.2	0.5	5.7	47.8	45.8	7,778	4.4
(19)	この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	2019		0.8	1.9	12.7	40.7	44.0	8,177	4.3
		2020		0.5	1.3	8.4	36.3	53.4	7,224	4.4
		2021		0.3	1.1	8.9	36.8	52.9	7,778	4.4
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1～5の5段階で評価してください。	2019		0.6	2.3	21.0	57.9	18.2	8,177	3.9
		2020		0.3	1.8	13.8	59.6	24.6	7,224	4.1
		2021		0.3	2.1	14.4	58.7	24.5	7,778	4.0

※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。

2022年4月25日

2019年度_2020年度_2021年度　後期実施
「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率（%）						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(1)	あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	2019	57.5	22.1	12.1	6.0	2.2		7,533	0.7
		2020	64.0	17.3	11.1	5.7	1.9		5,812	0.6
		2021	64.8	17.5	10.5	5.2	2.0		6,582	0.6
(2)	あなたは『講義要項』（シラバス）をよく読みましたか。	2019		7.8	21.2	31.4	32.0	7.6	7,533	3.1
		2020		5.7	16.5	21.6	43.4	12.7	5,812	3.4
		2021		2.9	12.6	25.0	43.5	16.0	6,582	3.6
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2019		6.2	15.6	32.1	34.9	11.2	7,533	3.3
		2020		3.5	12.5	26.0	40.3	17.7	5,812	3.6
		2021		2.6	10.6	28.6	39.3	19.0	6,582	3.6
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2019		1.4	3.8	16.6	56.6	21.6	7,533	3.9
		2020		0.5	2.2	11.2	56.7	29.4	5,812	4.1
		2021		0.4	3.0	11.7	54.6	30.2	6,582	4.1
(5)	あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	2019		0.1	1.3	18.4	48.8	31.5	7,533	4.1
		2020		0.0	0.6	11.8	45.8	14.8	5,812	4.3
		2021		0.2	0.8	13.9	45.0	40.1	6,582	4.2
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2019		0.9	1.2	16.8	49.7	31.4	7,533	4.1
		2020		0.4	0.9	10.0	48.4	40.3	5,812	4.3
		2021		0.1	0.7	8.8	48.9	41.5	6,582	4.3
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2019		0.8	1.7	10.0	45.5	41.9	7,533	4.3
		2020		0.5	1.0	5.5	43.2	49.0	5,812	4.4
		2021		0.2	1.0	6.8	42.4	49.7	6,582	4.4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2019		1.1	2.1	10.9	45.6	40.3	7,533	4.2
		2020		0.6	1.3	6.6	44.3	47.2	5,812	4.4
		2021		0.2	1.3	8.2	44.3	46.0	6,582	4.3
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2019		2.1	3.4	11.4	42.9	40.2	7,533	4.2
		2020		1.1	2.0	8.7	42.3	45.8	5,812	4.3
		2021		0.8	2.7	9.5	43.1	43.9	6,582	4.3
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2019		1.7	3.1	13.3	42.8	39.1	7,533	4.1
		2020		0.8	1.8	9.3	43.5	44.6	5,812	4.3
		2021		0.4	2.2	9.9	43.7	43.8	6,582	4.3

2022年4月25日

2019年度_2020年度_2021年度　後期実施

「学生による授業評価アンケート」集計結果（実施全科目分）比較表

質問項目		年度	各選択肢の回答率（%）						度数	平均値
			0	1	2	3	4	5		
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2019		1.3	2.8	14.8	42.6	38.5	7,533	4.1
		2020		0.8	2.3	11.8	41.3	43.9	5,812	4.3
		2021		0.6	3.1	12.7	43.8	39.8	6,582	4.2
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2019		1.1	1.8	9.4	43.0	44.8	7,533	4.3
		2020		0.5	1.9	6.0	40.6	51.1	5,812	4.4
		2021		0.6	1.9	6.7	41.7	49.0	6,582	4.4
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	2019		1.5	2.3	11.9	44.6	39.7	7,533	4.2
		2020		0.5	1.4	7.8	43.4	46.8	5,812	4.3
		2021		0.4	1.6	8.7	43.5	45.8	6,582	4.3
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2019		1.4	2.1	8.9	45.9	41.7	7,533	4.2
		2020		0.4	1.3	6.5	44.5	47.4	5,812	4.4
		2021		0.6	1.9	7.8	44.4	45.3	6,582	4.3
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2019		0.8	1.0	9.7	43.6	44.9	7,533	4.3
		2020		0.3	0.9	6.0	41.5	51.2	5,812	4.4
		2021		0.3	0.7	6.8	42.8	49.3	6,582	4.4
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2019		1.0	1.0	9.5	45.2	43.3	7,533	4.3
		2020		0.5	0.9	4.9	42.8	50.8	5,812	4.4
		2021		0.5	0.6	6.4	45.2	47.3	6,582	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	2019		1.0	1.4	10.9	44.6	42.1	7,533	4.3
		2020		0.5	0.9	6.0	43.3	49.4	5,812	4.4
		2021		0.3	0.9	7.3	42.6	48.9	6,582	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2019		0.6	0.8	9.0	47.6	42.1	7,533	4.3
		2020		0.2	0.6	5.0	45.6	48.6	5,812	4.4
		2021		0.1	0.5	5.8	46.1	47.5	6,582	4.4
(19)	この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	2019		1.1	1.7	11.6	40.2	45.4	7,533	4.3
		2020		0.4	1.0	7.6	34.8	56.3	5,812	4.5
		2021		0.3	1.2	8.4	38.3	51.8	6,582	4.4
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1～5の5段階で評価してください。	2019		0.7	1.7	18.1	59.7	19.9	7,533	4.0
		2020		0.1	1.5	11.0	58.4	29.0	5,812	4.1
		2021		0.3	1.5	13.4	57.3	27.5	6,582	4.1

※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。

◆授業評価（2021 年度「学生による授業評価アンケート」の結果について）

2021 年度「学生による授業評価アンケート」の結果について

【アンケートの概要と結果の活用方法】

本学では、FD 活動の一環として、毎年度前期・後期に「学生による授業評価アンケート」を実施し、その結果に基づいて、各授業担当者は授業改善報告書を提出することになっている。後期には、授業改善報告書の内容が一部変更となり、カリキュラムポリシーに則った分析も加えられた（非常勤講師を除く）。加えて、授業改善報告書提出時に「学生の成長に関する所見（DP の観点から）」の提出もお願いし、ディプロマポリシーに関する自己査定も実施した（別途報告）。これらは、新設されたアセスメントポリシーに基づく査定方法の一環である。

【アンケート結果の分析】

アンケート項目(1)の出席率は、欠席なしという回答が前期・後期ともに過去三年間で最高となった。とくに前期は 76.2%と高かった。これは、コロナ禍において感染症拡大防止のためオンライン授業や課題による代替措置がとられたこと、欠席を伴うサークル活動等が制限されたこと、加えて、今年度入学生からの公欠制度廃止に伴い、申請により出席扱いとなる授業が増えたことによるものと考えられる。項目(2)～(5)については昨年度とほぼ同じ平均値であり、学生の自己評価は比較的高い。しかし、シラバスの活用や予習・復習時間については値が他の項目に比べて低く、オリエンテーションの方法や授業者による動機づけによる改善の余地があると思われる。

授業を評価する項目(6)～(19)の平均値は、昨年と同じか僅かに下がっているが、なお 4 点台の高い値を示している。項目(20)の達成度自己評価も平均値は昨年度とほぼ同じ（前期 4.1、後期 4.0）であった。項目(20)では、「どちらとも言えない」「あまり達成できなかった」「ほとんど達成できなかった」の回答の和が 15%を超えているが、この主観的評価と成績（客観的評価）の相関は不明である。各科目担当者が当該科目に課せられた学習成果の達成に向けて、回答から得られる学生の実感を真摯に受け止め、授業改善に取り組むための一つの指標とすることが期待される。（達成度自己評価に関する学科・専攻別の分析は別途行う。）

令和 4 年 5 月 12 日

鹿児島女子短期大学ＦＤ・ＳＤ委員会

◆授業評価（2021 年度：学科別「学習の達成度自己評価」）

2022年4月25日

2021年度学習の達成度自己評価（全学科一般教養）

一般教養科目DP
①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。
②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。
③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。
④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

2021年度入学1年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	5	294	4.3	1	0.3%	5	1.7%	21	7.1%	157	53.4%	110	37.4%
②	6	438	4.0	3	0.7%	10	2.3%	64	14.6%	269	61.4%	92	21.0%
③	2	166	4.2	0	0%	1	0.6%	20	12.0%	96	57.8%	49	29.5%
④	7	294	4.0	1	0.3%	9	3.1%	45	15.3%	167	56.8%	72	24.5%

2021年度入学1年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	6	211	4.3	0	0%	0	0%	19	9.0%	118	55.9%	74	35.1%
②	7	394	4.1	2	0.5%	4	1.0%	47	11.9%	240	60.9%	101	25.6%
③													
④	5	200	3.9	0	0%	3	1.5%	46	23.0%	119	59.5%	32	16.0%

2020年度入学2年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	1	125	4.3	1	0.8%	0	0%	7	5.6%	67	53.6%	50	40.0%
②	2	2	4.0	0	0%	0	0%	0	0.0%	2	100%	0	0%
③	1	1	4.0	0	0%	0	0%	0	0.0%	1	100%	0	0%
④	2	4	4.3	0	0%	0	0%	1	25.0%	1	25.0%	2	50.0%

2020年度入学2年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	1	1	5.0	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%
②	2	102	4.4	0	0%	0	0%	8	7.8%	45	44.1%	49	48.0%
③	3	221	4.3	0	0%	0	0%	18	8.1%	123	55.7%	80	36.2%
④	2	29	4.2	0	0%	0	0%	4	13.8%	15	51.7%	10	34.5%

2022年4月25日

2021年度学習の達成度自己評価（児童教育学科）

児童教育学科DP

①（教育・保育に必要な専門性）教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。

②（課題解決能力）教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。

③（豊かな人間性）教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探求し向上しようとする態度を有している。

2021年度入学1年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	15	1,942	4.1	3	0.2%	22	1.1%	244	12.6%	1,173	60.4%	500	25.7%
②													
③	5	894	3.9	2	0.2%	45	5.0%	197	22.0%	478	53.5%	172	19.2%

2021年度入学1年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	13	1,316	4.1	4	0.3%	7	0.5%	154	11.7%	780	59.3%	371	28.2%
②	4	528	4.3	0	0%	0	0%	36	6.8%	278	52.7%	214	40.5%
③	4	461	4.1	1	0.2%	4	0.9%	76	16.5%	261	56.6%	119	25.8%

2020年度入学2年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	18	994	4.3	1	0.1%	3	0.3%	65	6.5%	585	58.9%	340	34.2%
②	8	356	4.3	0	0%	1	0.3%	26	7.3%	183	51.4%	146	41.0%
③	1	164	4.1	1	0.6%	2	1.2%	17	10.4%	104	63.4%	40	24.4%

2020年度入学2年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	17	733	4.2	1	0.1%	2	0.3%	63	8.6%	432	58.9%	235	32.1%
②	3	121	4.3	0	0%	0	0%	10	8.3%	69	57.0%	42	34.7%
③	2	112	3.8	0	0%	4	3.6%	31	27.7%	58	51.8%	19	17.0%

2022年4月25日

2021年度学習の達成度自己評価（生活科学科：生活福祉専攻）

生活科学科生活福祉専攻DP

①（専門的知識・技能）介護福祉士及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門知識と技能を修得している。

②（主体的・創造的な課題解決能力）修得した専門知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、自主的・創造的に貢献する能力と意識を持っている。

③（人間関係形成力とコミュニケーション能力）倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を身につけ、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。

2021年度入学1年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	11	79	4.0	0	0%	0	0%	11	13.9%	60	75.9%	8	10.1%
②	2	15	3.9	0	0%	0	0%	2	13.3%	12	80.0%	1	6.7%
③													

2021年度入学1年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	13	75	3.7	0	0%	3	4.0%	15	20.0%	56	74.7%	1	1.3%
②	4	26	3.9	0	0%	0	0%	4	15.4%	21	80.8%	1	3.8%
③	1	9	3.7	0	0%	1	11.1%	1	11.1%	7	77.8%	0	0%

2020年度入学2年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	7	37	4.1	0	0%	2	5.4%	5	13.5%	18	48.6%	12	32.4%
②	5	27	4.3	0	0%	0	0%	3	11.1%	14	51.9%	10	37.0%
③	1	6	4.3	0	0%	0	0%	0	0%	4	66.7%	2	33.3%

2020年度入学2年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	8	43	4.1	0	0%	2	4.7%	4	9.3%	25	58.1%	12	27.9%
②	5	27	4.0	1	3.7%	0	0%	5	18.5%	12	44.4%	9	33.3%
③	2	12	4.0	0	0.0%	1	8.3%	0	0%	9	75.0%	2	16.7%

2022年4月25日

2021年度学習の達成度自己評価（生活科学科：食物栄養学専攻）

生活科学科食物栄養学専攻DP

①（食物・栄養に必要な専門性）健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。

②（課題解決能力）習得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。

③（豊かな人間性）食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。

2021年度入学1年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	15	442	3.6	8	1.8%	33	7.5%	146	33.0%	213	48.2%	42	9.5%
②													
③	2	12	3.3	0	0%	1	8.3%	6	50.0%	5	41.7%	0	0%

2021度入学1年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	11	347	3.6	3	0.9%	26	7.5%	117	33.7%	168	48.4%	33	9.5%
②	4	137	3.6	1	0.7%	12	8.8%	46	33.6%	60	43.8%	18	13.1%
③	1	4	3.8	0	0%	0	0%	1	25.0%	3	75.0%	0	0%

2020年度入学2年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	6	133	3.9	1	0.8%	5	3.8%	31	23.3%	70	52.6%	26	19.5%
②	8	123	4.1	0	0%	0	0%	21	17.1%	63	51.2%	39	31.7%
③	2	3	4.0	0	0%	0	0%	0	0%	3	100%	0	0%

2020年度入学2年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	8	78	4.2	0	0%	2	2.6%	10	12.8%	37	47.4%	29	37.2%
②	5	67	4.3	0	0%	0	0%	4	6.0%	36	53.7%	27	40.3%
③	5	37	4.4	0	0%	0	0%	5	13.5%	14	37.8%	18	48.6%

2022年4月25日

2021年度学習の達成度自己評価（教養学科）

教養学科DP

①（専門的知識や技能）現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。

②（コミュニケーション能力）他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。

③（グローバル社会への理解）異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。

2021年度入学1年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	11	718	3.9	1	0.1%	19	2.6%	101	14.1%	497	69.2%	100	13.9%
②	2	145	3.8	1	0.7%	2	1.4%	26	17.9%	105	72.4%	11	7.6%
③													

2021年度入学1年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	13	490	4.1	2	0.4%	10	2.0%	54	11.0%	306	62.4%	118	24.1%
②	4	258	4.0	0	0%	7	2.7%	35	13.6%	167	64.7%	49	19.0%
③	1	68	4.0	0	0%	3	4.4%	7	10.3%	45	66.2%	13	19.1%

2020年度入学2年生（前期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	11	183	4.1	0	0%	3	1.6%	26	14.2%	104	56.8%	50	27.3%
②	2	61	4.1	0	0%	1	1.6%	8	13.1%	37	60.7%	15	24.6%
③	4	120	3.9	0	0%	0	0%	24	20.0%	80	66.7%	16	13.3%

2020年度入学2年生（後期）

DP	科目数（講義別）	総回答者	平均回答	①ほとんど達成できなかった		②あまり達成できなかった		③最低限達成できた		④おおむね達成できた		⑤十分達成できた	
①	11	203	4.1	0	0%	7	3.4%	26	12.8%	108	53.2%	62	30.5%
②	5	146	4.1	2	1.4%	1	0.7%	19	13.0%	84	57.5%	40	27.4%
③	7	126	4.0	2	1.6%	2	1.6%	18	14.3%	73	57.9%	31	24.6%

◆授業評価（2021 年度「学習の達成度自己評価」の結果について）

2021 年度「学習の達成度自己評価」の結果について

本学では、毎年度、前期・後期に「学生による授業評価アンケート」を原則、全科目で実施し、その中で具体的な自己評価項目（1～5）に加え、学習成果に関して達成度自己評価の項目(20)を設けて質問している。そのデータは、一方で、全学科共通の一般教養科目群および学科・専攻別の専門科目群に分けて集計・分析し、集団としての学習成果の達成度を測るために用いられる。他方、各学生の自己評価は、個人データ「学生カルテ」として指導教員に配布され、日頃の修学指導に活用されている。

以下は、全学共通、各学科・専攻それぞれのディプロマポリシー（DP）の観点から、各学年・各学期のデータを集計し、分析したものである。

【一般教養科目（全学科共通）】

DP 別科目群①～④について、全学年・前学期を通じて回答⑤「十分達成できた」、回答④「おおむね達成できた」の割合が 75%を超えており、全体的に達成度自己評価は高いと言える。しかし、回答①「ほとんど達成できなかった」、回答②「あまり達成できなかった」を選んだ学生が、1 年前期は延べ 30 名、後期は 9 名あり、とくに DP②に関連する科目（前期 13 名、後期 6 名）について適切な対応が求められる。

【児童教育学科】

1 年前期の学生の自己評価が他の学年・学期に比べやや低い。最初は厳しく自己評価する傾向があるとしても、DP③の科目群では延べ 47 名（5.2%）が「ほとんど／あまり達成できなかった」を選んでおり、一部の学生にとって躓きの石となる恐れもある。ただし、昨年度の 1 年生にも同じ傾向があり、2 年生となった今年度のデータでは平均値が向上しているので、さほど心配はないのかもしれない。いずれにせよ、科目担当者、指導教員による適切な対応が望まれる。

【生活科学科・生活福祉専攻】

回答数が少ないため、一人ひとりのデータが全体に及ぼす影響が大きい。それを踏まえて昨年度のデータと突き合わせると、2020 年度入学生（2 年生）には自己評価の高い傾向が窺える。1 年生は他学期に比べて 1 年後期の平均値が低いが、それは回答⑤「十分に達成できた」が少ないためである。例年、専攻では学生へのきめ細かい指導が行われているが、この時期、向上心を持つ学生が十分な達成感を得られるよう、授業改善へのいっそうの努力が望まれる。

【生活科学科・食物栄養学専攻】

昨年度と比較すると、昨年度は全学年・全学期、①「ほとんど達成できなかった」という回答はなかったが、今年度の 1 年生では延べ 12 名がそう回答している。②「あまり達成できなかった」と回答した者も前・後期合わせると述べ 72 名であり、平均値もすべて 3 点台で、他学科に比べるとやや低い。一般に 2 年生になると達成感が向上する傾向はあるが、2021 年度生については、専攻としていっそうきめ細かな指導が期待される。

【教養学科】

2021 年度は、昨年度の報告と数値的にほぼ同じである。1 年前期の平均値がやや低いものの、全学期を通じて 4 点前後の平均値を保っており、学生の達成度評価は高い水準で安定している。これは、教養学科のバランスよく配置されたカリキュラムが機能し、個別の修学指導が適切に行われている結果であると考えられる。

令和 4 年 5 月 12 日
鹿児島女子短期大学ＦＤ・ＳＤ委員会

◆授業評価（例：2021 年度後期：学生自己評価による学生別カルテ）

2021年度後期授業評価（学生カルテ2021年度後期2年生）

2021年度後期授業評価（2020年入学2年生）				Q1. 欠席回数				Q2. 講義要綱				Q3. 予習・復習				Q4. 授業内容理解				Q5. 授業態度				Q20. 達成度（自己評価）			
学籍番号	学生氏名	科目番号	科目名	①欠席なし	②1 2回	③3 4回	④5回以上	①全くしてこない	②あまりしてこない	③どちらともいえない	④おおむねしてきた	①全くしてこない	②あまりしてこない	③どちらともいえない	④おおむねしてきた	①全くしてこない	②あまりしてこない	③どちらともいえない	④おおむねできた	①悪い	②どちらかといえば悪い	③どちらともいえない	④どちらかといえばよい	①思ったほどできなかった	②あまりできなかった	③どちらともいえない	④おおむねできた
20		2			◎						◎				◎				◎				◎				◎
		2			◎						◎				◎				◎				◎				◎
		2		◎																							
		2			◎																						
		2		◎				◎				◎								◎				◎			
		2																		◎				◎			
		2						◎

２．授　業　公　開

＜授業公開週間実施内容＞

（単位：名）

実施期間	参　観 科目数	専　任 教員数	授業参観記録 提出教員数	備　考 （教員内訳）
2021 年 11 月 15 日（月）～12 月 11 日（土）	（延べ） ４２	４２	３４	児童教育：17/21 名 生活：9/11 名 教養：8/10 名

◆授業公開週間について①「お知らせとお願い」

令和３年 10 月７日

教員　各位

FD・SD 委員長　村若　修

「授業公開週間」に関するお知らせとお願い

歳末というにはまだ早いものの、何かと気忙しい時候となってまいりました。
さて、下記の予定で授業公開週間が始まります。授業力向上のため、自らの授業にたいする他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。つきましては、教員メールボックス脇に用意した「**後期時間割**」に、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ（×）印をつけていただきますようお願いします（一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。）。
なお授業参観の際は、実習その他による休講等があるため、事前に授業担当者へ参観希望である旨をお伝え下されば幸いです。また参観は、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。
参観後は、「公開授業報告書」作成のため、12 月 19 日（日）までに、サイボウズと Office365 でお知らせする URL から、感想等をオンラインでご回答ください。

記

令和３年度後期授業公開週間　１１月１５日（月）～１２月１１日（土）

概　　要：①上記の期間中に授業の参観ができます。９０分間に複数の授業を参観していただいても構いません。
②期間中は、「授業公開週間時間割」に条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入退室できます。

参 観 後：①参観者は感想等をオンラインでご回答ください（公開授業報告書）。
②報告書は１授業につき１件の回答となります。
③報告書は回収した後、科目毎にまとめ、授業担当者へお渡しします。
（ただし、コピーを１部、ＦＤ・ＳＤ委員会で保管します。）

以上

◆授業公開について②「授業公開参観記録（Microsoft Forms）提出依頼」（2021 年度）

「授業公開週間」参観報告書の提出について

村若　修
2021/12/13 (月) 13:16
宛先: 全教職員

教員各位

今月11日に授業公開週間が終わりました。
参観後、まだ報告書を提出しておられない方は、下記URLから報告書をご提出ください。
締め切りは12月16日（木）とさせていただきます。

「授業参観報告書提出URL」：
https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=y9bmAywG5UypA6_8V1PEVA03RDrbcplBqi1K1LEC5I9UOEc0SzhXSEFTR1I0Q05CWDQ3VIk4S082Ui4u

また、第1回FD研修会（研究授業と検討会）の日程は、12月23日4コマ目です。
ご参加よろしくお願いいたします。

FD・SD委員長

◆授業公開について③「授業公開参観記録（Microsoft Forms 使用）」（2021 年度）

2021年度「授業公開週間」参観記録
（11-12月実施）

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. （1）記入者（所属学科）*
- 1. 児童教育学科
- 2. 生活科学科
- 3. 教養学科
- 4. 非常勤講師
- 5. 事務職員
- 6. その他

2. （2）記入者氏名 *

3. （3）参観科目名 *

3/1/2022

4. （4） 参観科目担当者名 *

5. （5） 参観月 *

- a. 11月
- b. 12月

6. （6） 参観日 *

7. （7） 参観曜日 *

8. （8） 参観時間 *

- a. 1・2限目
- b. 3・4限目
- c. 5・6限目
- d. 7・8限目
- e. 9・10限目

3/1/2022

9. （9） 参観授業についての感想 *

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

Microsoft Forms

3/1/2022

◆授業公開実施報告（2021 年度）

2021 年度　授業公開週間について（報告）

○実施期間：2021 年 11 月 15 日（月） ～ 12 月 11 日（土）

○参観報告書提出者数

学　科	人　数	備考
児童教育学科	１７	（4・2 科目参観：各 2 名）
生活科学科	９	
教養学科	８	
合　計	３４	（総提出数：４２）

○参観科目一覧＜（　）は参観者人数＞

教職実践演習(2)	We Love 鹿児島！	ウェブデザイン(3)
キャリアガイダンス Ⅰ	ビジネスワーク	介護の基本Ⅳ
介護総合演習Ⅰ・Ⅱ(2)	介護総合演習Ⅳ	解剖生理学Ⅱ
絵本論	給食管理	現代社会学
子どもと音楽Ⅱ	子どもと音楽Ⅳ	子どもと人権
子どもの健康と安全	子ども家庭支援の心理学(2)	子ども家庭支援論
子ども家庭福祉	食品衛生学実験(2)	図画工作科指導法
読書と豊かな人間性	日本語表現法Ⅱ(6)	保育・教職実践演習(3 組)
保育・教職実践演習(4 組)	保育内容(人間関係)の指導法(2)	保育内容・表現の指導法
幼稚園教育実習Ⅰ指導	FD・SD 研修会(2)	

○参観報告（内容）

今年度の授業公開も、誰のどの授業を参観しても自由としていたが、結果的には同じ学科の教員同士の授業参観が多かった。この傾向は例年のことであるが、例年にも増して、今回は、それぞれの参観者が自分なりの視点で参観する授業を選び、そこから積極的に学び合おうとする姿勢が、感想から見て取れた。児童教育学科でお二人が相互に授業を参観し合った例があったので、長くなるがそれぞれの報告の一部を紹介したい。

「授業に引き込まれて聞いている学生の姿が印象的でした。私も聞いていてあっという間に 90 分が過ぎました。先生ご自身の好きな本や好きなシーン等を紹介していただくと、ただの教材として出会うよりも興味を持つことができると感じました。（授業後、使用されていた本を購入したくなりました。）科目の性質もあると思いますが、「教育」というものの捉えが大きく、生きるとは、人を大切にするとは、教育とはというような根本的な問いについて学生自身の中にある考えを見つめ直す機会になる授業であると感じました。卒業して現場に出ると、根本的な問いについて考える機会はなかなかないと思いますが、実は、実践をしていく中では、その捉えが大きく影響するとも感じます。直接的に職業的スキルに結びつく授業と、畑を耕すような授業と両方が必要なんだということをこの授業を参観させていただ

いて感じました。今後、自分の科目の中で、根本的な部分について考える部分も意識的に作っていきたいと思います。また、先生と学生とのやりとりの様子について、根本的な問いに関して学生自身の中に学生なりの答えがあるということへのリスペクトのようなものを感じました。少し勇気がいりますが、学生にすべてこちらから答えを示すのではなく、投げかけてみるというのも大切だという風に感じました。まだまだ教える事が未熟な自分にとって、授業の質、学生とのやりとりのスキルの両面において参考になる事の多い授業だと感じました。」

「〇〇先生のこれまでのご経験を生かした、具体例を交えた分かりやすい授業でした。２年生の授業ということで、数か月後に現場に立つことに意識が高い学生にとっては、実感が持てるものだったと思います。途中で学生の中に入りロールプレイ的な働きかけをしたのも実感的な学びにつながるものでした。また、学生が保育教職実践演習で示した事例を本授業で活用されたのも、他科目と有機的な関連をもって学生を育てるという意味で良いと思いました。さらに、「宿題」として「（宿題ということがばれないように）友達をほめてリアクションを見てね」を提示された時の学生の反応が良かったです。ワクワク感をもって楽しく学べるのがやはり重要だなと再確認できました。あと、細かいことですが、出欠確認をされる際に学生一人一人に「こんにちは」と声をかけられていて、学生は安心するだろうと思いました。今回は理論面の授業だったということで仕方ない部分もあるかとは思いますが、先生が話をする時間が授業の大部分を占めており、同じテンポで話されていたので、もう少し「間」があってもいいかとは思いました。学生への問いかけをされる場面もありましたが、イエスかノーで答える、あるいは語句を答える質問がほとんどでしたので、本質的に考えさせる問いかけも工夫されるといいのかなと考えました。例えば「練習問題」のところで、私だったら「近くの人と予想してみて」と言ってしゃべらせたかなと思います。授業を参観させていただき、ありがとうございました。」

これは一例であるが、授業公開週間がこのような交流の機会を創出していることはたいへん意義深い。また、いわゆる隣接科目の間では、内容的にも方法的にも共通性が高く、率直な情報交換・意見交換によって相互に改善が図られやすい。独りよがりにならないで垣根を取り払い、問題点を共有し、協力していくことが、それらを解決していくことにもつながると思われる。

参加報告から一般的に窺えるのは、参観された授業の中には昔ながらの一方通行の授業はほとんど見当たらないということである。アクティブ・ラーニング定着の証左と言ってよいだろう。教養学科では、一つの科目を 6 名が参観して場を共有し、学生のプレゼンテーションを中心とした授業について感想を述べている。児童教育学科では、ICT 教育に関連して学科独自のFD研修も行っている。授業公開週間やFD・SD研修が短大の教育を語り合う「広場」になれば幸いである。

〇授業参観について（第１回FD研修会時アンケート結果）

	回答人数	%
①現状のままでよい	31	68.9%
②実施方式・内容などを変更した方がよい	14	31.1%

授業公開週間については、後期の 10 月から 12 月の実施が定着している。しかし、この時期でさえ教職員には多忙な時期であり、今年度は参加率を上げるために実施期間を長くとった。実施方法に大きな変更は加えていない。事後アンケートによれば、回答者の 3 割が実施方式や内容の変更を求めており、具体的な提案も出されていることから、次年度に向けて、改善すべきところは改善していきたい。主な改善案は次のとおりである（統合・要約）。

・より多くの教職員が参加できる時期や期間、方法を考える。実習期間や論文〆切時期を避ける。
・前期の授業参観もできるようにする。隔年で前期と後期を変更することも考えられる。
・授業公開週間前にレクチャーをした上で、ある視点をもって授業を参観し、それをレポートとして提出して、FD研修会の材料にする。
・研究授業を学科ごとに実施する。それを何年かのサイクルで続け、全員の授業を全員が参観するというような仕組みにする。
・一人一コマ授業の録画を行い、オンラインで自由に参観できるようにする。
・各々で参観して感想を提出する形式だと、一方的な印象があるので、関連授業を担当している先生方との交流・意見交換ができる形での参観がよい。
・授業参観については、教員間で話し合いが必要である。良い教育実践をしている教員をピックアップして研究授業を実施する。
・「いい授業」は多様であり、今後授業参観に何らかの評価指標を導入して点数化するということが検討されるのであれば、それは止めた方がいい。

〇まとめ

昨年度の反省を踏まえ、授業公開週間の期間を一ヶ月程度に拡大した。その効果もあってか、参加者は教員 42 名中（助手を除く）34 名で参加率は 8 割を超えた。また、複数授業を参観した教員の増加、非常勤講師担当授業の参観など、積極的な動きも見られた。大半の教員は、教育課程の中で内容的に自分の担当科目と関連性の深い科目（隣接科目）を参観しており、参観記録の分量も増加している。これは、隣接科目の担当者同士が互いに授業の情報を共有し、内容を調整し合うことにつながる。すでに相互のシラバスチェックがそのような意義を有しているが、公開授業でもその点が強化されるだろう。カリキュラム・ポリシーの観点からすると、各科目が点から線へ、線から面へと連携することにより、全体として教育課程がより有機的に統合されることにもなろう。授業公開週間後に実施した第 1 回 FD・SD 研修会も、隣接科目を意識した研究授業の参観とその検討会であり、授業公開週間の総括的な役割を果たした。参加した事務職員にとっても、授業や学生の様子を知るよい機会になったのではなかろうか。今回の授業公開週間を契機として、教職員が本学の教育とその質向上について共通のイメージをもち、それぞれの持ち場で力を発揮することを期待したい。

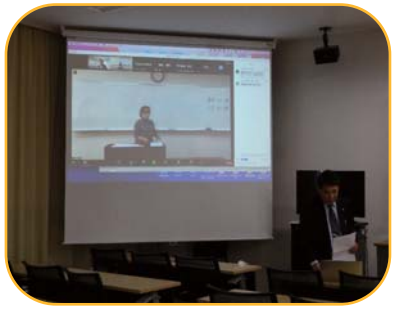
3. FD・SD 研修会

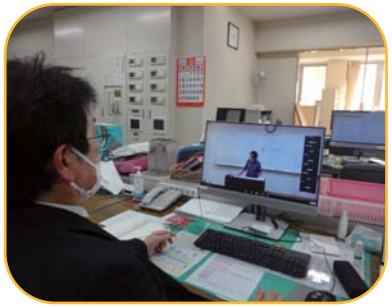
＜ＦＤ・ＳＤ研修会内容＞

・2021 年度第１回ＦＤ・ＳＤ研修会（研究授業：各研究室等でのオンライン参観）
テーマ：「研究授業：授業参観を通した学び合い」
2021 年 12 月 23 日（木）　４コマ目（研究授業：本館 402 号室）
（講師：児童教育学科　准教授　平　嶋　慶　子　先生：授業担当者
児童教育学科　准教授　内　田　豊　海　先生　）
参加者：本学全教職員

・2021 年度第２回ＦＤ・ＳＤ研修会（オンライン研修会）
テーマ：「経験（実践）からの学びを通して」
2022 年 3 月 3 日（木）　（13：00―14:30）　（各教員研究室・事務室等）
（講師：児童教育学科　准教授　内　田　豊　海　先生
児童教育学科　准教授　渡　邊　光　浩　先生）
参加者：本学全教職員

◆2021 年 12 月 23 日（木）「2021 年度第１回ＦＤ・ＳＤ研修会」





◆ＦＤ・ＳＤ研修会連絡（12/23）：当日資料＆全教職員メール（連絡）

令和３年度　第１回 FD・SD 研修

『研究授業：授業参観を通した学び合い』

授業者：平嶋先生『子ども家庭支援の心理学』
日時：12 月 23 日（木）４コマ目
実施形態：授業参観及び授業検討（直接参観もしくはオンライン参観）

内容：
　研究授業は、小学校から高校まで広く行われている教員研修方法です。その内容は、授業者が事前に授業を計画し、参加者がその授業実践を参観します。そして、その授業について建設的に意見を交換しあい、より良い授業作りへの提案とするものです。
　今回の授業では、２つの提案を行う予定です。１点目はカリキュラムの相互関連性を念頭に入れた授業づくりを行うことです。本授業は、同学期に開講されている平本先生の『子育て支援』『子ども家庭支援論』と密接な関係があります。特に『子ども家庭支援論』で制度的な側面を扱うのに対し、本講義『子ども家庭支援の心理学』では同じ内容を心理学的側面から取り扱います。つまり、学生は同じ事象を、「子どもや親、家族の心理的側面」と「社会制度的側面」の両面から学習することになり、教科間での綿密なすり合わせが必要となると同時に、その結果として、大きな学修成果が期待されます。
　２点目はアクティブラーニングをいかに取り入れるかという点です。学生がアクティブな思考をするためには、それが可能となる題材、教材を準備し、授業を設計する必要があります。本講義では、ニュース番組や新聞記事という日常に溢れている題材の中から、学生の暮らしと密接に関わる話題を取り上げ、喫緊かつ自分事として考えらえるニュースを取り上げ、それに対しアクティブラーニングを通して学びを深めていこうと思います。
　授業参観後、この授業を批判的かつ建設的に検討し、意見交換をする機会を設けられたらと思っています。その際の観点としては、上述した（１）他教員との授業の関連性、（２）学生の学習の様相（アクティブラーニング）などを考えています。検討会は Zoom を用い、オンラインで実施予定です。

← FD･SD研修会　ＺＯＯＭミーティング入室方法

村若　修
2021/12/22 (水) 17:18
宛先: 全教職員

教職員各位

　明日のFD・SD研修会にはこちらからお入りください。

https://us02web.zoom.us/j/86063825627?pwd=OGdsNTFUZy9Ic05meXgwbXFZQnFPdz09

ミーティングID: 860 6382 5627
パスコード: kjt

よろしくお願いします。

ＦＤ・ＳＤ委員長

← 研修会アンケート回答のお願い

村若　修
2021/12/24 (金) 9:53
宛先: 全教職員

教職員各位
　昨日のFD・SD研修会への多数のご参加ありがとうございました。
ご参加いただいた皆様は、出席確認も兼ねますので、以下のURLからアンケートにお答えください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=y9bmAywG5UypA6_8V1PEVA03RDrbcplBqi1K1LEC5I9URU5CQUNRQVVNVTY1NlZGN1g4RVVXM1lPQi4u

よろしくお願いします。

FD・SD委員長

◆2021 年度第１回ＦＤ・ＳＤ研修会アンケート（Microsoft Forms 利用）

2021年度 「第1回FD研修会」 （研究授業参観 ： 12／23実施） 感想

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. （1） 記入者 （所属学科） *

- 1. 児童教育学科
- 2. 生活科学科
- 3. 教養学科
- 4. 非常勤講師
- 5. 事務職員
- 6. その他

2. （2） 記入者氏名 *

3/1/2022

3. （3） 第1回「FD研修会」 （研究授業参観） についての感想 *

4. （4） 現在の授業参観 （週間） について、 どのようにお考えでしょうか？ *

- ①現状のままでよい
- ②実施方式・内容等を変更した方がよい

5. （5） 上記問 （4） についてのご意見、 その他、 授業参観 （週間） についてのご意見をお聞かせください。 *

このコンテンツは Microsoft によって作成されたものではなく、送信した Office 365 グループのメンバーに送信されます。

Microsoft Forms

3/1/2022

◆2021 年度第１回ＦＤ・ＳＤ研修会報告

2021 年度第 1 回 FD･SD 研修会報告（アンケート結果）

･開催日時：2021 年 12 月 23 日（木）4コマ目
･テーマ：『研究授業：授業参観を通した学び合い』
･授業担当者：平嶋先生『子ども家庭支援の心理学』
･実施形態：授業参観及び授業検討（オンライン参観）

･実施内容：
「よい授業」を考え、それを共有することを目的に、担当教員が研究授業を行い、その参観をもとに、教授領域の近い教員ごとで話し合いを行った。具体的には、まず担当教員から授業の意図と準備の流れについて報告があり、その後、オンラインで研究授業の参観を行った。教職員はそれぞれの研究室、事務室から参観し、同時に自らの授業を振り返りながら「良い授業とはないか」について考えていった。授業参観後、ブレイクアウトルームを用い、9 つのグループに分かれ、それぞれでテーマに沿った話し合いが持たれた。
以下、本研修で教員が感じたことのアンケート結果を記していく。

･アンケート結果
＜回答者数＞

	人数(名)
児童教育学科	17
生活科学科	12
教養学科	9
事務職員	5
計	43

【1】 FD 研修会に参加しての感想

【感 想】
･学科の先生方と主体的な学びについて意見交換ができ、貴重な経験となった。同じようなテーマ、話題でも、繰り返し話し合っていくことに意味があるのだと思う。
･関連する科目で意見交流ができたのがよかった。
･授業参観、意見交流とも有意義であった。
･普段関わらない先生方の講義に関する考えが聞けると、さらに見識が広がると思った。
･授業は全体を見る必要があると感じた。直接参観するのでなければ、動画を撮影し、アップし、それをもとに説明と討論してもよいのではないか。
･Zoom への慣れが教員も学生も必要。
･先生方との話の中で、それぞれが工夫されている点や学生への思いなどを伺うことができ、今後の自分の授業への示唆となった。理論と実技を半々で教えているが、相互の関連性を

もたせ、学生が興味を持つような授業作りをしていきたい。
・他の教員と授業の内容、在り方について検討を行うことは、授業の質を高める上で有意義だと思った
・人間教育が目的で、知識を蓄えることが必ずしも目的でないことはわかる一方で、基礎科目の特性として知識の蓄積が避けられないことがある。短大という2年間の学びの中で、どのように基礎科目を人間教育に結びつけたらいいかはまだわからない。
・生活福祉専攻では学生の学びをつなげるための方法として、介護実習が中心にある。これをもとに各科目がつなぎ合っていく構造がすでに出来上がっており、その重要性を再確認できた。
・他学科の先生の講義を聞く機会はなかなかないので勉強になった。
・考える力を育てるためには、しっかりとした基礎知識が前提であると思う。2年間で幅広い教科の知識を効率的に学ぶために、教員間で授業の内容について話し合うようにすることが大切だと思った。
・授業の中で、教員自身の経験や卒業生といった身近な存在を取り上げることで、より学生が興味を持ち、想像しやすくなるのだと思った。
・授業に関し、音声が聴き辛いことがあった。
・授業を作る上で良い授業とは何かという問いは、一番基本的なところであるにも関わらず、一番難しい問いでもあって、改めて考えさせられるきっかけとなった。
・大人数教室での、特に後ろの話を聞いていない学生へいかに注意するかが気になった。
・せっかく良い授業についてディスカッションしたので、アンケートフォームにも、良い授業は何かについて聞く項目があってもよかったのではないか。
・授業としての良さを抽出できたとして、それを自分の授業にどう落とし込めばよいのかわからない。次回はその付近の話があるとありがたい。
・他の先生の授業参観をすることで、客観的に自分を振り返ることができた。
・オンラインでの研修をさらによくするために、学生の様子がより良くわかるような授業風景を撮影すると良いかもしれない。
・「いい授業について」という授業についての話し合いは短大に入って初めてだった。学生の就職や委員会の話ばかりが多く、教育や研究について他の教員ともっと話し合いたいと思った
・「学生になにを経験させたいか」を考えながら仕事をしていきたいと思った。
・講義中にもう少し間（学生がゆっくり考える時間）があってもよかったと思う。

【所　見】

今回の FD・SD 研修会は、研究授業を通し、授業参観をした上で意見交流を図り、それぞれの教員がよい授業について考えようというものであった。学科や専攻等の会議の中で授業の実際について話し合う機会は少なく、このような機会があってよかったという意見が多かった。

今後の課題もいくつも見つかった。まず、参観していただいた授業は児童教育学科の1授業であり、授業作りも児童教育学科の学生に焦点を当てたものである。そのため、各学科、専攻により特化した研究授業であるべきであったし、今後はそのような方法も検討していかなければならない。また、オンラインでの授業参観であったが、オンラインの質を保ちきれておらず、

音声に不都合が生じたり、また映像も学生の様子をしっかりと映し切れておらず、よりよい参観のために、機器の使い方をもう少し習熟させる必要がある。

アンケート結果を見ながら、強く感じたことは、先生方が互いに対話を求めておられるということだ。それぞれの先生方が個別に試行錯誤しながら授業作りを行っている中、FD では積極的に意見交流の場、創造的協働的な場を設定し、高めあう教員集団という空気を成熟させていく必要があるのではないだろうか。

【2】 公開授業参観に関する意見

・『現状のままでいい』29 名（67.4%）

（現状のままでいいという回答の中にも、さらに改善策などを書いてくださるコメントが多数ありましたので、それらは「方法・内容等を変更した方がいい」と回答してくださった先生方のコメント（アドバイス）とともに記載します。）

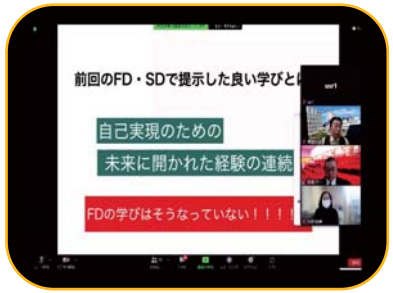
・『実施方法・内容等を変更した方がよい』14 名（32.6%）

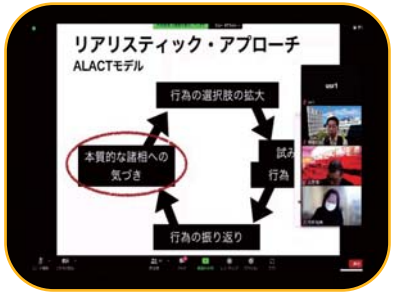
【改善提案】
・参観自体はとても有意義であるが、流れのある 15 回のうちの 1 回を切り取って、その先生の講義を把握・評価することには難しさがある。
・期間をさらに伸ばし、見たい時に見に行ける環境はどうであろうか。
・隔年で、実施時期を前期・後期と入れ換えると違った授業が見れてよいかもしれない。
・授業参観する前に、FD 研修をし、参観のポイントをおさえた上で、その視点から参観すると効果的だと思う。
・公開週間中に、学科ごとに研究授業を行い、それぞれの学科で参加、議論できたらいいのではないか。
・後期に持ちコマが多いので、実施時期を前期にも入れてほしい。
・一人一コマオンライン録画をし、それを自由に見える形式でもいいかもしれない。
・個別で参観するのではなく、関連科目の教員が集まって参観し、議論する。
・よい授業実践をしている教員をピックアップし、研究授業を実施する。
・学科や専攻科の会議の中では、授業について話し合う時間を持てないので、今回のように授業について話し合う時間を設けてもらえるとありがたい。
・参観の目的や視点を明確にした上での参観がいいと思う。
・忌憚のない意見を言うことは難しいため、どのように意見交流をするかは重要な課題。

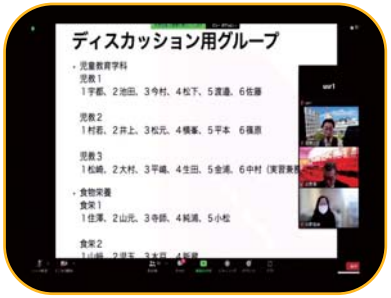
【所　見】

「現状のままで良い」「実施方法・内容等を変更した方がよい」のどちらの意見の理由も、そのほぼ全てが授業参観に関し、肯定的に受け止め、より良いものであってほしいという趣旨のものであった。いただいたコメントの中の多くは、実現可能性があり、有意義な公開授業となり得るものであり、次年度以降積極的に導入していきたいと感じた。

◆2022 年 3 月 3 日（木）「2021 年度第２回ＦＤ・ＳＤ研修会」







◆ＦＤ・ＳＤ研修会連絡（3/3）：当日資料＆全教職員メール（連絡）

令和４年度　第２回 FD・SD 研修会

反省的実践家とはなにをいかに反省すればいいのだろうか
ICT を用いた省察経験の共有を通して

日時：３月３日 13 時より
場所：オンライン研修（各研究室、事務室にて Zoom を用いて接続）
参加者：全教職員

内容：
今年度第１回の FD・SD 研修では研究授業を通し、それぞれの教員が思い描く「よい授業」を共有してきました。一方で「よい授業」を実践するために、様々な困難を感じていることと思います。そのような文脈の中、しばしば教員は反省的実践家たれと言われます。自らの教育実践を振り返り、改善することでその困難を乗り越え成長していけるのだと。しかし一体、なにをどのように反省したらいいのでしょうか。自分自身の教育活動を客観的に見つめ直すことも難しいですし、さらにそこから具体的な改善策を導き出し、理想のよい教育へ結びつけるためにどのような方策を立てたらよいかもとても難しい問題です。
そこで、今回の研修では、困難を反省的に乗り越えるために取り組まれてきた様々な試みの中から、オランダ人教育学者で教師教育を専門とするコルトハーヘンの実践を紹介します。この実践は、教師教育だけでなく、様々な分野でも応用可能で、SD 研修としても有用なものになっています。そして、その省察実践をグループごとに協働しながら議論することを通し、反省的実践家の一側面を体験できたらと考えています。またその際、より話し合いが深まっていくよう、効果的に ICT 機器を活用していきます。
具体的には、実際の授業場面や業務内でも活用できるよう Zoom を用い、ブレイクアウトルームでのグループ討議では、グーグルジャムボードやマインドマップといったシンキングツールを用い、オンラインでの共同活動を教職員が実際に行う経験を通し、自らの授業へつなげるきっかけを作っていきます。

【お願い】
本研修では、教職員の「困り感」をグループ討議を通し、反省的に振り返ることを目指しています。現在みなさんが授業や職務をする上で感じている困り感や難しさ、その他議論したいことを持ち寄り、それについて具体的に改善策を考えられたらと思っています。そのため、予め議論したい内容、みなさんが感じている様々な難しさ（どのような問題点でも大丈夫です）を考えておいていただけるとありがたいです。

← 第2回FD･SD研修会について

教職員各位

お世話になっております。内田です。
明日（3月3日）のFD・SD研修会はZoomを通して実施いたします。
つきましては、Zoomミーティングルームを用意しましたので、お知らせいたします。
ルームは、12時以降、自由に入ることができます。

ご質問等ありましたら、内田、渡邉までご連絡ください。

また、明日は前回よりも長めの時間をとり、グループディスカッションを予定しています。
その際、先生方が現在困っていること、これまでの経験で難しさを感じたことから話を進められたらと考えています。
ですので、もしお時間がありましたら、話し合いたい内容（教育上・職務上の困難を感じた経験）を考えておいていただけるとありがたいです。

よろしくお願いいたします・

内田豊海

トピック: 令和３年度第２回FD・SD研修会
時間: 2022年3月3日 13:00 PM 大阪、札幌、東京

Zoomミーティングに参加する
https://zoom.us/j/96098003153?pwd=d29GRG8rcm1odVczeE1uWk51d1NFZz09

第2回FD・SD研修会について

村若　修
2022/03/01 (火) 17:15
宛先: 全教職員

教職員各位

3月3日（木）13:00～14:30、第2回FD・SD研修会をオンラインで行います。
zoomの利用についてはあらためてご連絡いたします。
研修会参加後、3月10日（木）までに以下のURLからアンケートにお答えください。
お答えいただくことで出席確認といたします。

「第2回FD研修会アンケートURL」：https://forms.office.com/r/CsaUi1pnd3

ご出席、よろしくお願いいたします。

FD・SD委員長

◆2021 年度第２回ＦＤ・ＳＤ研修会アンケート（Microsoft Forms 利用）

2021年度「第2回FD研修会」（3／3実施）感想

*必須

*このフォームでは名前の記録を行います。名前を入力してください。

1. (1) 記入者（所属学科）*

○ 1. 児童教育学科
○ 2. 生活科学科
○ 3. 教養学科
○ 4. 非常勤講師
○ 5. 事務職員
○ 6. その他

2. (2) 記入者氏名*

3/1/2022

3. (3) 第2回「FD研修会」についての感想*

4. (4) 今回の研修で議論した事柄を通して、今後さらに、FDで議論したい内容等について、ご意見をお聞かせください。*

このコンテンツは Microsoft によって作成されたものではありません。不正なデータをフォームに送信しないでください。

Microsoft Forms

3/1/2022

◆2021 年度第２回ＦＤ・ＳＤ研修会報告

2021 年度第 2 回 FD･SD 研修会報告（アンケート結果）

･開催日時：2022年3月3日（木）13:00～14:30
･テーマ：『経験（実践）からの学びを通して』
･担当者：渡邊光浩先生・内田豊海先生
･実施形態：オンライン研修

･実施内容：
「経験（実践）からの学びを通して」と題し、自らの経験から感じる職務上の難しさをICT機器を用いながら、他者と共有しながら省察することで、より深い学びへと結びつけることを目的とした。具体的には、前半に教師教育研究者のコルトハーヘンの省察について説明し、その後、ジャムボードを用い、各教職員が自らの経験上で感じた課題をALACTモデル上に書き込み、他者と共有・議論し、課題に対する改善策を模索した。
以下、アンケート結果から、本研修に関する教職員の感想を挙げる。

･アンケート結果
＜回答者数＞

	人数(名)
児童教育学科	9
生活科学科	13
教養学科	10
事務職員	7
計	39

【1】 FD研修会に参加しての感想

【感　想】
・ボードを使い方についてはとてもよくわかりました。PCのスペックによる部分は大きいなと思いました。
・前回もそうでしたが、正直、内容の詰め込みすぎかなと思いました。ツールの紹介を授業研究へのメリットの面だけさらっと行って、あとはじっくり討論というのをしたかったです。あるいは、ICTを活用した授業ならそれに特化しての討論でも良かったと思います。何を討論するかというテーマ設定もあいまいだったため拡散しすぎて、一般論的な話に終わってしまったなという印象です。講話部分は何が研修に直結するかを吟味し、事前に録画してアップしておくとか、いろいろ工夫ができるのではないかと思います。
・話合う内容が少し分からず、戸惑ってしまいました。ジャムボードを使って話し合いを進めていく過程はとても楽しんで行うことができました。
・ICTを用いた意見交換の手法が面白かった。付箋で簡潔にコメントすることで、相手に理解し

てもらう言葉を考えることにもなったと思う。
・初めて使ったソフト？だったので勉強になった。
・普段話すことの少ない先生方とお話しできて、とてもよかったです。
・FD・SD研修ということで，内田先生が「授業や業務」で「困ったこと」としたため，自分のグループでは教員も業務での学生対応が中心になっていた。企画側は前回からの流れを受けて，授業についてのディスカッションを考えていたのに，そうならなかったのが残念だった。
・新たな取り組みであった。前半は主催者の意図が分からず、戸惑いもあったが、後半においては、設定されたグループ内で活発にディスカッションできた。
・ジャムボードを使ったことがなかったので、方法は新鮮だった。しかし、操作に慣れるのに時間がかかり、テーマについて議論を深められたとは言えない。それでも、一定のテーマで書き込んだり会話したりすることが、今後のFD活動へのきっかけになったような気がする。SDとしての意義がどこにあるか明確でなかった。
・ジャムボードを使ったことがなかったため、使い方が分かって良かった。もう少し、各セッションに分かれる前に、演習の方法等の説明があった方が良かったと思います。ただ、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
・ジャムボードの使用方法を学ぶことができ良かったです。今後入学してくる学生の状況を把握するために、ICTを活用した実践事例に関して、渡邉先生のお話もうかがいたかったです。
・経験したことのない話し合いの方法でスムーズにいかないこともありましたが、大変良い学びになりました。ありがとうございました。
・物事を相手の視点にたって深めて考えることの難しさを感じました。どうしても主観的になってしまい、相手の考え方さえも主観的な意見によっているのではないかと考えてしまうからです。しかし、認識がずれていたとしても、相手の視点を意識して考える癖をつけることで、他者理解の経験値を増やすことができるのだと思いました。学生への対応も、一呼吸おいて相手の考えを深めて読み取り、お互いの認識をすり合わせて適切な対応ができるようにしていきたいと思います。
・工夫していただいた内容だと思いました。ただ、書き込む操作に慣れるまで時間がかかり、オンラインでお話するのが中途半端になってしまいました。この研修の良さを認識するのに時間がかかってしまったので、次回はすばやく対応できたらいいなと思いました。
・内田先生の話は、それ自体をもっとゆっくりと聞きたいぐらいでした。事前に、こうしてこうするという資料（ザックリとしたものではなく、詳細な流れと操作）を配布しておいてくれると有難いです。ジャムボードを使ってみることが出来たのは良かったが、どう活用すれば良いのかまではよく理解できなかった。特に、議論自体はそれなりに活発に行われたと思うが、ジャムボードを議論を深めるためにどのように活用すればよいのかはまだ不明のままです。また、枠が動いたりして結構操作しにくかったです。教員同士で話し合いをする機会を得たのは、特にコロナでそのような機会も激減していたので、とても良かったです。ただ、時間も不足していたけど、時間を掛けても、どう打開していけば良いのかまでの結論にまでは至りそうにないテーマが多い印象です。
・新しい情報や教育方法などご指導頂き、大変勉強になりました。グループ討議を理解することに少し時間がかかりましたが、画面上で情報を得て、会話ができることに驚きました。時代や手法に対応しつつ、これまでのあり方とのバランスも必要かと思いました。いろいろとご準備頂

き有難うございました。
・教員間のリフレクションを8つの窓により思考するということを初めて経験させていただき、日常の会議より議論しやすかった。反省的実践家ということについては、時間が不足したが、今後本日の討議を継続出来たらと思う。このグループ協議は授業においても主体的に学ぶためのディスカッションに活用できるのではないかと思った。また、ジャムボードは、教材作成にも活かせるのではないか感じた。本日は「よい授業」について考える機会を与えていただいたのと同時にICT活用についても研修が出来てとても有意義な時間となった。
・本日は教育上の困り感の解決について、コルトハーヘンの「8つの問い」をジャムボードを使ってグループ討議する機会を作っていただきありがとうございました。ICT活用と同時に自分の教育活動を客観的にとらえ、協議することを学ぶことができとても有意義な時間になりました。
・経験からの省察について、新たな知見を得ることが出来ました。内省することに意義があると思っていましたが、そこに相手の視点を持つことが大事とのことから、今後授業の振り返りなどで役立ててみたいと考えています。
・大変有意義な研修会を催していただき有難うございました。現在の教育の現場はあらゆるICTを用いての教育が急速に進んでおりますし、低年齢への導入も目覚ましいと感じております。そしてそのような学生たちが成長し、進学してくるとなると高等教育の現場もそれ以上の活用が必須だと思います。本日の研修内容でのブレイクアウトルームであったり、グーグルジャムボードやマインドマップといったシンキングツールがあることを知れただけで満足していてはいけない、使いこなす・実践し体験を積むことの重要性を感じました。
・新たな気づきがありました。
・回を追うごとに研修会の内容が具体的になり、今後に活かしていこうと思えた。ただ、今回は議論する前の操作段階でつまずき、先に進めなかったので、先ずは操作方法をマスターした上で実施できたら良かった。よって、今後も継続して研修会を実施して欲しい。
・授業に関する話題に入るまでに、PCの操作に非常に苦労しました。
・それぞれの先生方のバックグラウンドで研修のアクティビティに対する考え方は異なり、面白い議論はできたかと思います。また、今回は村若先生もおっしゃっていましたが、JAMボードを体験したのも大きな価値があったと考えます。
・Jamboardを初めて使いました。基本的な使い方が分かったよかったです。求める内容と学習者の能力によって十分なツールになる場合と、やりたいことが限られる場合があるとも思いました。対象者と目的で使い分ければよいものだとも学びました。ありがとうございました。加えて、参加者の環境によって複数ツールを使用する場合は難しいと再確認しました。特に学生はスマホで参加することがあり、今回iPadで参加の先生がご苦労している姿をみて、私自身普段のオンライン授業で目を向けることが欠けていることがあると自省しました。
・教員がどのような事例で困難を感じているのかわかったのがよかった。経験、勤続年数に関わらず、同じような問題を抱えていることがわかったことは励みになった。意見交換においては全員が教員という立場で物事を見ているため似たような物の見方になってしまうし、学生や保護者の立場に立って議論できたかという点に関しては不十分であった。
・1時間30分で「システムの使い方」と「内容のディスカッション」は厳しかった気がします。活動内容が面白かっただけに尻切れとんぼ感があり残念な気がします。もう少し長時間にするか、別に実施されてもよかったかもしれません。事前に説明を受けていても、グループで分かれて

作業をしていると「で、どこまですればよいの？何時まで？」となりました。活動途中に確認できるよう、チャットなどに活動内容と時間配分が書いてあるとよかったかもしれません（私が気づかなかっただけでしたらすみません）。
・貴重なお話をいただき、また、貴重な機会をいただきありがとうございました。困りごとに直面した際に自分の立場からではなく相手の立場からも考えてみるというのは今まであまり実践したことがなかったのですが、相手の要求や考え方などをつかむという重要さに気づかされました。実際にICTを用いたグループワークをすることで実際に「経験」をすることができましたし、他の先生方の体験などを共有することができました。他の先生方の困りごとに関して考えてみましたが、やはり同じ教員という立場に近い考えを持ってしまうので、様々な立場の人々との体験の共有が今後できると良いと思いました。また、iPadでZoomに参加していたからか、チャットでファイルを受け取ることができず、時間を少々ロスしてしまいました。事前にファイルの共有をする等、ご対応をお願いしたいです。FDに関して考える良い機会でした。誠にありがとうございました。
・前回と引き続き、現象学のタームである「間主観性」を軸にした研修会で、いい試みだと思った。ただ、オンラインでの議論だったためか、何をどのように記入して、どのような話を展開していけばいいのか分かりづらいところもあった。個人的には、他者の思考や視野をある主体が「主観的に」共有することは不可能なので、間主観性という信仰に基づいて、他者の主観をいかに想像するかという、想像力の問題なのだろうと感じた。
・知らないことばかりで大変勉強になりました。ありがとうございました。
・ALACTモデルも、実例を示しての表での説明で分かりやすかった。画面で見えない（隠れている部分）もあったり、パソコンだと拡大表示ができなかったりするので、配布資料のように、PDF資料などを配布してもらった方が、見やすかったかもしれない。渡邊先生の紹介された動画を見て、現在の小学生のICT教育が想像以上にだいぶ進んでいるという感想を持った。（先進的な例だからこそ紹介されていたのか、かなり一般的なのか、地域差があるとしたら鹿児島はどうなのかも知りたい。）後で、メールでYouTube動画の案内もしてもらえて、良かった。教養学科「情報処理論」でコメントを書き込む、ランダム席の設定などの工夫をしていただいている事を知り、良い教育をしてもらっていたんだなあ、と、今更ながら実際の一部を知った。実践タイムは、ツールを使ってみることが目的なのか、問題を共有したり、それぞれの話をしてみることが目的なのか、分かりにくく、ツールの使い勝手に関する話が多くなったように思う。それでも、最後に少しだけそれぞれのケースについて（結局は直接、音声で）話す機会もあり、良い機会になった。ありがとうございました。
・考え方や意見が違う中で物事を円滑に進めるためには、情報共有と十分な話し合いが必要だということを考えさせられる研修でした。有難うございました。
・新しいツールのご紹介等をいただき、ありがとうございました。よろしければ、事前にツール使用について、説明のPDF等を配付していただけ、また進行手順を示しておいていただけますと、当日、参加者は、少しスムーズな利用が可能かと思われました。さらに、次に教授会等の日程が組まれており、短時間での研修会となりましたので、折角ご担当者の皆様が準備された研修会ですので、もう少し余裕のある日程で、時間をいただけると、より深い話し合いや研修会になるかと思われます。研修会でのご説明等、ご準備をありがとうございました。
・様々なツールを使っての研修会、初めてのケースはうまくいかないこともあるでしょうが、このような取り組みには賛同します。テーマも興味深かったです。
・進行がバタついて、最後はグダグダでした。
・内田先生の資料が分かりやすかった。グーグルジャムボードを使って考えた内容は、仕事の中でも学生対応でも大変役に立つ内容だった。
・渡邊先生が紹介された、ICT教育について、私が小学校の時とはまるで世界が違っていて、小学校の時からこのような教育を受けてきている子ども達と上手く接する事ができるのかと不安になりました。「ジャムボード」を初めて使用しました。楽しかったです。
・ブレークアウト後の話し合いが難しかった。ジャムボードの操作に手間取り時間が足りず，本来の話し合いができなかった。
・ZOOM会議に慣れていないせいかもしれませんが、グループ討議ができませんでした。それぞれに内容が異なり、テーマを絞って話し合いを持つと活発な討論ができたのかもしれません。
・今回の研修でジャムボードの利用の仕方が分かった。事務局は自席での研修のため、窓口、電話対応等をしながら参加する者が多くなり、積極的な参加となれず残念だった。

【所　見】

今回の研修は、「(1)ALACT モデルを用いて協働的に省察する」「(2)(1)のために zoom、ジャムボードといった ICT 機器を活用する」という 2 つの側面があった。アンケート結果から、両者を並行したためにどっちつかずな内容となってしまったことが伺える。改善策として、(2)をより効果的に行うために、教職員の ICT 機器の習熟具合をより深く知り、事前にジャムボードの使い方をまとめた資料を配るなどして、事前理解を図ることが大切であろう。また(1)の内容に関しては、(a)講師の話をもう少ししっかりと聞きたかった、(b)教職員同士の議論にもう少し時間を割きたかったとの意見が見られた。両者ともに時間を割いたことがどっちつかずな内容になった原因であることから、(a)の講師の話（コルトハーヘンの省察に関する内容）は予めオンデマンド配信し、事前学習を促し、研修の中でしか行えない(b)の討論の時間を確保するという反転授業的方法を用いることを視野に入れる必要があろう。限られた時間の中で、焦点を当てるべき点を絞り、参加者が主体的に学び合える場にするために、より綿密な FD・SD を計画し、誰にとっても建設的で有意義な時間としたい。

【2】 今後、FD・SDにおいて深めていきたい内容

【内　容】

・講義間のFDとかあるといいかなと感じます。やり方が難しいけど…。
・研究授業をきちんとやって、それを今回のツールも生かしながら時間をかけて検討する。
・1つの事柄について教員それぞれ色々な考えがあるということで、1つの教材についてその教材をどのように利用して授業を組み立てるか等気になります。（学科ごとに取り扱う内容が変わってくると思いますが…）
・今回のような授業を行う上での困りごとを共有して、コメントをしあう研修をまた行いたい。
・もう少しテーマを絞って、議論できればありがたい。
・評価の時期にとても迷うので、皆さんがどのように学生の学びを把握し、どのような基準で評

価を行っているか聞いてみたいと思いました。
・ICTを活用しながらアクティブラーニングを取り入れる授業について、レポートや試験の内容について
・日頃感じている問題を気軽に話し合えるような雰囲気が醸成されたような気がするので、教員間、教職員間の壁を崩せるような企画を、失敗してもいいので、どんどん出してほしいと思った。
・ICTを活用した授業の実践方法
・学生さんの気持ちを理解できるような内容のものがあると嬉しいです。
・意思疎通の苦手な学生の対応方法
・小学校でも情報機器での授業が進んでいるので（渡辺先生の動画で）将来的には短大でももっと活用されるのだろうと思うが、このような授業のメリットデメリットを知りたいと思う。
・学生に媚びず、だけど教員の理想を押し付けないためにはどうすれば良いのか？学生が興味関心を持ってくれれば良いということは分かっているのですが、じゃぁどうやったら多くの学生たちは興味関心を持ってくれるのか？
・困りごとを、カテゴリー別に検討する
・アクティブ・ラーニングについてもっと学びたい。学生自身が主体的に考えたり議論したりして問題を解決しようとしているのか、受動的な授業になっていなか等、リフレクションして、議論したい。
・グループディスカッションの機会を通じて示唆を得ることができました。テーマにもよりますが、ディスカッションができる研修内容を期待します。
・ICT機器を用いた教育実践ツールがたくさんあると思いますが、まだまだ知らないことが多いので、色々なツールをご紹介頂きたい。
・学生からの困りごとを含め、専攻でも教員間で常に話題にしている。しかし、今回の様な方法は初めてだったので、参考になった。今後も話題を提供して頂き、広い視点で考え、問題点を改善していきたい。
・共通のテーマを設定して、チャットなどで、自由に文字で意見交換できるようなものがあってもよいと思うことでした。
・現代の学生、また卒業生を受け入れる企業をターゲットとして、ALACTモデルに基づくカリキュラム構築を検討するのも有益かと思います。
・普段の情報共有であれば、話し合いの時間がとれた方がより有意義だと思いました。今回のテーマはICT活用であり、今回のやり方はそのテーマにそっていたので全く問題ありません。このやり方なら、一斉研修ではない研修として活用できるのではと思いました。
・発達障害等を持つ学生への対応。一般的な発達障害等については随分勉強する機会があった。しかし、個人の特性の程度・種類によって対応が異なると思われる。個人情報がわからない範囲でこれまで短大に属した学生の成功例や失敗例を教えていただきたい。どのような指導をして社会に送り出したらいいのか参考にしたい。
・学生アンケートや授業評価結果の良い点、問題点を取り上げた研修があってもよいかと思います。
・合理的配慮が必要な学生への対応や精神的問題を抱えた学生への、保健室や事務と連携した学生対応などが他の先生方の困りごとでも挙がっており、今現在私が対応に困っている事

柄です。
・2日前の南日本新聞の記事『ポニーテール禁止なぜ？質問に担任は答えた「男子がうなじに興奮するから」16歳女子生徒は思う「校則つくった人の感覚おかしい」』がヤフーニュースでも転載され、全国的にかなりの反響を呼んでいる。校則の不合理さを訴えた生徒に、「ここは鹿児島だから」と教師が答えたと記事には書かれている。「多様性」が重んじられる時代性の中で本学も私服を可とすることになったが、「ここは鹿児島だから」なのか、完全なる私服というわけでもなく、個人的には混乱を生むのは必至だろうと感じている。学則や制服の件も含め、教員は学生から様々な不満や意見を聞く機会が多いが、それに対してどのように答えているのか、どう接するべきなのか興味がある。
・FDには該当しないのかも知れませんが、常識のラインの違いが、もはやジェネレーションギャップという言葉では片づけなれないところまで来ています。ビジネス科目を通して引き上げに努めてはいますが、ベースとなるもののあまりの違いに愕然とすることもあります。他学科の先生方はどのようにされているのかについての情報交換ができればと思いました。
・鹿児島でのICT教育などの地域と時間を合わせて、今の大学1年生は、とか、来年度の短大入学生は、などといった情報教育特性みたいなことも教えてもらえると、準備しやすいようにも思った。（議論した事柄を通して）ということであれば、合理的配慮について、実際のケースを通して学ぶというのは、やはり今後も必要性は増していくように思った。また、「やるべきこと」「やった方がいいこと」はどんどん増えていく一方で、「削ってもいいこと」なども個人的には考えていきたいため、他の先生方の実践例なども聞きたい。（授業で扱う内容を減らすしかないのか、フォローを適度に切り上げるしかないのか、などの、ある意味、割り切り方など。）
・話し合いのテーマを、各教員・職員の皆様に選択してもらい、その教員間で、交流・話し合いを持つ機会があっても、より深いFD・SD研修会になるかと思われました。
・SDでは、私学経営や財務に関する研修は必要かと思います。
・FD・SD研修会のテーマは事前に収集した方がいいかと思います。教職協働について年1回議論する場があってもいいのではないでしょうか？
・今回のFD研修会の「困り感の共有」は、これまでもいろいろな研修会などで考えてきたが、今回の内容は特に勉強になった。
・私の世代は全くICT教育を受けてきていないので、現在の小学生が受けているようなICT教育を知る機会があるのは、とてもありがたいと思います。
・教員と事務職員の教職協働について
・教職員のICTスキルをみがくもの

【所　見】

アンケートに回答いただいた内容から、FD・SD研修で深めたい事項が、多岐にわたっていることが見てとれた。授業の内容に関すること、評価に関すること、ICTに関すること、学生対応に関すること、教職協働に関すること、多様性やルール作りに関することなど様々である。これらを全学FD・SD研修の中で取り扱うだけでなく、テーマ別に自主研修を開催し、興味のある教職員が主体的に集まり話あえる場を設定することで、より個別的で深まりのあるFD・SD活動となるのではないか。今後検討していきたい。

あとがき

2021 年度、本学の FD・SD 活動は、委員会を中心に、授業評価、授業公開、FD・SD 研修会の 3 本柱で実施されました。

学生による授業評価アンケートは古くから実施していますが、実施方法、分析方法、結果の活用方法には変遷があり、徐々に進化してきました。例えば、アンケート項目の中から学生の自己評価に関する項目をピックアップして、「学生カルテ」を作り、個別指導に活用できるようにしました。また、本年度はアセスメントポリシーの新設に伴い、従来の「授業改善報告書」の中にカリキュラムポリシーに関する自己評価項目を加えると同時に、別紙として「学生の成長に関する所見（DP の観点から）」の提出もお願いし、データの充実を図りました。ただし、本報告書では、これらの分析は扱わず、学生アンケートのデータ分析のみを行っています。

授業公開は、例年通りの方法で期間を拡張して行われ、多数の参加者がありました。また、第 1 回 FD・SD 研修会は、新たな試みとして、授業公開と関連づけて実施しました。参加者は、本学教員の通常授業をオンラインで参観した後、いくつかのグループに分かれてディスカッションするというものでした。第 2 回 FD・SD 研修会もオンラインで行われ、「いい授業とは何だろう？」というテーマに関して、講演と実践紹介の発表を視聴した後、グループに分かれて「ジャムボード」というシンキングツールを用いて話し合い（書き込み合い）ました。研修については、今後まだまだ改善の余地がありますが、それぞれ新たな視点で考えることができたと思います。企画に携わっていただいた教職員の皆様、ありがとうございました。

コロナ禍の中で、FD・SD 活動で取り上げる内容・方法も大きく変化したように見えます。しかし、目指すところは、学生たちが意欲をもって学び、十分に学習成果を達成し、自信をもって社会への第一歩を踏み出すということに尽きます。そのためにどのような学習環境を整えるか、皆で知恵を絞り、実際に試み、鹿児島女子短期大学ならではの学びのあり方を、これからも模索していきましょう。

鹿児島女子短期大学ＦＤ・ＳＤ委員会
委員長　　村 若　修

「鹿児島女子短期大学ＦＤ・ＳＤ活動報告書」
（2021 年度版）

鹿児島女子短期大学ＦＤ・ＳＤ委員会
（2022 年 5 月発行）